

## 第9回つくば3Eフォーラム会議に参加して

筑波大学生命環境科学研究科 環境バイオマス共生学専攻 町田峻太郎

今回の会議に参加して最も印象に残ったことは「交通行動を考えることは環境に大きな影響を与える」ということである。筑波大学 谷口守教授の発表において、「一週間の内自動車に乗る時間を10分減らす」ということが環境への負荷を軽減するのに非常に効果があるということが提示されていた。温室効果ガスの排出に伴う地球温暖化の影響を少しでも軽減するため、持続可能社会を作ることが一つの対策案として考えられる。

また、コンパクトシティを目指した公共交通の利便性の向上と中心市街地を活性化することが少子高齢化や地方の活力低下を抑制することが挙げられていた。このとき、コンパクトな町づくりには公共交通ネットワークの形成が不可欠である。多くの住民がより良い生活を送る上で、交通というものは重要な基盤となる。公共交通沿線に商業、医療、行政等の機能や人口を集積するように整備し、公共交通を活性化することがコンパクトシティを作るのに必要である。

このためには、公共交通の活性化が住民の生活にどう結びつき、都市の発展にどう寄与しうるのかを予測していくことが必要となる。これから環境に優しい町づくりをしていくために、私たち一人一人がこれらのことに興味を持つことと同時に、市と民間企業が広域的に連携して取り組んでいく必要があることが分かった。

また、環境に負荷を与えず、生活しやすいまちを作り上げるために必要な考え方と知見を今回の会議に参加して得ることができた。